

脱原発と太陽光発電

東日本大震災により発生した福島第1原発の事故は最大の公害です。その被害は大気・空気・空・水・海・川・土・土壌を汚し、食物・農畜産物・魚介類を奪い、私たちのいのち・暮らし・環境を破壊します。その影響は現在ばかりか次世代まで引き継がれ、地域も広範囲です。安全神話が崩れ安全が約束できないのですから、二度



と再び原発事故を起こさないためには原子力発電によるエネルギーから脱却して、自然エネルギーに転換しなければダメだということを教えてくださいました。

ところで、私は今年の1・2月の我が生協・住宅センター主催の地球環境・環境セミナー「ハチドリのひとしずく、今、私にできること」と「まだ誰も知らないオール電化・太陽光発電のはなし」に参加しました。講師は、『パワーポイントを使って太陽光発電とオール電化によって自然エネルギーを利用して地球環境保全に貢献し、ガスや電気代を削減しようと結構熱く語りました。』オール電化には少々抵抗感がありましたが太陽光には積極的意義が判ったのです。

早速、職員の伊藤さんとアドバイザー野上さんに見積もりを頼みました。すると、まず、いま現在のガスや電気代金の一年間のデータ提出を求められました。経済効果・光熱費削減等の計算に使うのです。

一年間の我家の光熱費と太陽光やオール電化を導入した場合のシュミレーションを出してくれたのです。省エネ・創エネの上、負担や回収の目安をみて腹が決まりました。さらに、国や自治体の助成や補助金の説明を受けメーカー等の選択をしたのです。



さて、4月下旬からスタートしました。『発電所吉川』を登録し、あのにくき東京電力に売電です。設置後の日数も浅く、設置前との比較検討等はできていませんが、原発事故前の導入決断で環境対策や自然エネルギーの利用拡大に入ったことを喜んでいます。

理事 吉川 方章

太陽光発電を導入して思う

太陽光発電など自然エネルギーによる電力自給を考えたのは今から40年以上もさかのぼる。かつて都立の工業高校で電気科に属していた時に、関東地区電気教育研究会の発表会があった。そこに太陽光追跡充電装置を発表するために太陽電池を扱っていたが、それが太陽電池との最初の出会である。当時は何より高価であり、また、得られる電力も今の数分の1にも満たなかったと記憶している。しかし、太陽光から電気が直接得られるということに大いに興味をそそがれていた。



それを実用の形で思い描けるようになったのは、ログハウス作りを始めた6年前である。ある程度建築し終わったら自然エネルギーを導入しようと願っていたからだ。もちろん、太陽光発電でも風力発電でもまた、電気に限定することではなく自給自足に足る方法であれば他の方法でもかまわなかった。実行に移すきっかけは、昨年12月、学校生協が消費者住宅生協の環境セミナーに参加したことだ。講師の森田氏の話に共感・共鳴、引き込まれたからだ。

4月の末には屋根の片側一杯に設置され、室内に発電状況が一目でわかるパネルが取り付けられた。パネルにはその時に住居で消費している電力量、発電している電力量、売買している電力量が数値と共に電気の流れが矢印で表示される。総消費量より発電量が多いと緑表示となり、消費量の方が多いと赤になる。緑色では住居全ての電気を太陽電池にまなかっていることを示し、上回った分を売電していることも見てとれ、太陽電池に「がんばれ！」のメールを送りたくなる程だ。無駄に使用しているところを探し回り、スイッチを消すなど省エネ対策にもなる。普及される最大のネックは設備設置に投ずる初期費用だろう。我が家では乗用車数台分に相当する費用がかかった。安価な商品開発と普及のために国、自治体などの長期的な補助制度が測られるべきだ。



自然エネルギーは太陽光ばかりではないので、今後さまざまな課題を解決できれば、風力や小水力、バイオマス、地熱利用などを利用した技術を大いに利用したい。戦争で使うことを目的にし、未熟な技術で強行した原発による発電はごめんだ。

組合員 朝比奈 健一